

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

Patent No.
2,512,862

(11)Publication number : 07-124201
(43)Date of publication of application : 16.05.1995

(51)Int.CI.

A61G 7/00

(21)Application number : 05-247392
(22)Date of filing : 08.09.1993

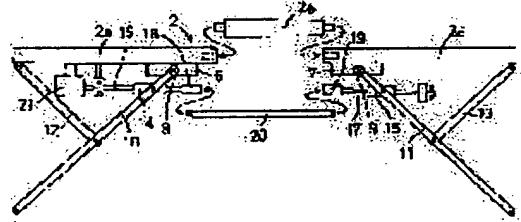
(71)Applicant : PARAMOUNT BED CO LTD
(72)Inventor : NOMURA KATSUYOSHI

(54) LIFT MECHANISM FOR BOTTOM OF BED

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a bed-bottom lift mechanism suitable for a collapsible household bed.

CONSTITUTION: Lifting leg members 10, 11 are attached, respectively, to head and leg side frames 2a, 2c into which a frame 2 is split, and auxiliary stays 12, 13 are connected to the middle portions of the respective lifting leg members 10, 11 to assist in restraining the movements of the lifting leg members 10, 11. Female screw members 14, 15 are attached to the respective lifting leg members 10, 11 and screw shafts 16, 17 are engaged in the respective female screw members 14, 15 and made operable in conjunction with each other by connecting a connecting rod 20 to connecting pipes 18, 19, and a motor 21 is connected to the end portion of the screw shaft 16. The mechanism can thus be simplified and becomes particularly suitable for a collapsible household bed.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 08.09.1993

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2512862

[Date of registration] 30.04.1996

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

第2512862号

(45)発行日 平成8年(1996)7月3日

(24)登録日 平成8年(1996)4月30日

(51)Int.Cl.⁶
A 6 1 G 7/00

識別記号

府内整理番号

F I
A 6 1 G 7/00

技術表示箇所

請求項の数1(全4頁)

(21)出願番号 特願平5-247392

(22)出願日 平成5年(1993)9月8日

(65)公開番号 特開平7-124201

(43)公開日 平成7年(1995)5月16日

(73)特許権者 390039985

バラマウントベッド株式会社
東京都江東区東砂2丁目14番5号

(72)発明者 野村 克芳

東京都江東区東砂2丁目14番5号 バラ
マウントベッド株式会社 開発本部内

(74)代理人 弁理士 三猪 晃司

審査官 多喜 鉄雄

(54)【発明の名称】 ベッドにおけるボトム昇降機構

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】 ベッドにおけるフレームを少なくともベッドの頭側および脚側フレームに分割可能に構成し、これら頭側および脚側フレームに、それぞれ上端部をフレームに沿って移動可能に装着した起伏脚部材を設け、起伏脚部材の中間部と頭側および脚側フレーム端部側とを補助ステーにより連結して起伏脚部材の動作を規制補助する構成とし、これら起伏脚部材の上端部に近接した箇所に、ねじ部材を装着すると共に、これらめねじにそれぞれねじシャフトを螺入していくつか一方のねじシャフトにねじシャフトの駆動手段を連結し、これらねじシャフトを連動可能に連結する構成としたことを特徴とするベッドにおけるボトム昇降機構。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、構成を単純化した、特に組立式の在宅用ベッドに適用可能なベッドにおけるボトム昇降機構に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、我が国における高齢者の占める割合は、増加の一途を辿っており、在宅介護の必要性がますます顕著になっている。そのために、在宅用ベッドの需要が高まっている。また、かかる在宅用ベッドにおいても、通常の病院用ベッド同様、多機能化、電動化が進み、電動によって背上げを始め、脚上げ、フレームの昇降調節する機構が備えられるようになってきた。ところで、在宅用ベッドは、一般家庭において使用するものであるから、組立式のものが望ましい。組立式にすると梱包しやすく、荷姿の大きさを抑えることができるのと、屋内に簡単に運び入れることができるからである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】反面、組立て式にすると、組立ての手間がかかると共に、取扱説明書を参照しながら組み立てるわけであるから、煩雑であるばかりか、組立て箇所によっては工具が必要となることが多い。かかる組立の手間は、多機能化、電動化によって一層増大し、ますます組立を困難なものとしている。さらには、多機能化、電動化によって重量が増大し、在宅用ベッドとしては好ましいものではない。本発明はこのような背景からなされたもので、構成を単純化した、特に組立式の在宅用ベッドに適用可能なベッドにおけるボトム昇降機構を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記した課題を解決するために、本発明は、ベッドにおけるフレームを少なくともベッドの頭側および脚側フレームに分割可能に構成し、これら頭側および脚側フレームに、それぞれ上端部をフレームに沿って移動可能に装着した起伏脚部材を設け、起伏脚部材の中間部と頭側および脚側フレーム端部側とを補助ステーにより連結して起伏脚部材の動作を規制補助する構成とし、これら起伏脚部材の上端部に近接した箇所に、めねじ部材を装着すると共に、これらめねじにそれぞれねじシャフトを螺入していずれか一方のねじシャフトにねじシャフトの駆動手段を連結し、これらねじシャフトを連動可能に連結する構成としたことを特徴とする。

【0005】

【作用】頭側および脚側のフレーム双方の起伏脚部材と補助ステーを、一つの駆動手段によって連動させる構成であるので、機構の単純化が可能である。また、ねじシャフトを頭側および脚側とに分離形成してそれぞれねじシャフトを断続可能に連結する構成とすると、フレームを少なくとも頭側および脚側フレームとに分割構成したベッドに本機構を適用することができる。

【0006】

【実施例】次に、本発明にかかるベッドにおけるボトム昇降機構について、一実施例を挙げ、添付の図面を参照しながら以下説明する。図1に組立式の在宅用のベッド1を示す。このベッド1は、フレーム2を3分割に、ヘッドボード3およびフットボード4をフレーム2に着脱可能に、そしてボトム5を分割して、図示しない背上げ機構、膝上げ機構により、背上げ、膝上げを行う構成としたものである。前記3分割されたフレーム2は、ヘッドボード3を取り付ける頭側のフレーム2aと、中央部に位置して腰部に対応するフレーム2bと、フットボード4を取り付ける、脚側のフレーム2cによって構成されている。前記中央部に位置するフレーム2bは、両端部をそれぞれ頭側のフレーム2aと、脚側のフレーム2cに差し込んで連結する構成となっている(図2参照)。

【0007】かかるフレーム2において、ベッド1の頭側フレーム2aおよび脚側フレーム2cには、それぞれフレーム2a、2cに設けたガイドレール6、7に沿って上端部がローラ8、9を介して移動するように起伏脚部材10、11が装着され、これら起伏脚部材10、11の中間部と頭側フレーム2aおよび脚側フレーム2c端部側とを補助ステー12、13により連結して起伏脚部材10、11の動作を補助規制する構成としている。

【0008】これら起伏脚部材10、11のガイドレール6、7に近接した箇所には、互いに逆に螺刻されためねじ部材14、15が取り付けられ、それぞれ、ねじシャフト16、17が螺入装着されている。これらねじシャフト16、17は、連結パイプ18、19に連結棒20を連結することで、連動可能に構成されている。そして、頭側フレーム2a側のねじシャフト16端部には、ねじシャフト16、17の駆動手段であるモータ21が接続されている。

【0009】次に、前記ねじシャフト16、17を連結する手段である連結パイプ18、19に連結棒20について、更に詳細に説明する。すなわち、ねじシャフト16、17は、図3に示すように互いに対向する端部に連結パイプ18、19を嵌入してピン部材22、23により固定している。そして、これら連結パイプ18、19に連結棒20の両端部をそれぞれ挿入し、抜け止め手段24によって固定する構造である。前記連結パイプ18、19は、内面が6角形に形成される一方、連結棒20は、外周が6角形のものを採用している。また、連結パイプ18には、抜け止め手段24を係止するための切り溝25が形成されている。かかる連結パイプ18側に挿入する連結棒20には、径が他の位置の連結棒20の径に比較して小としたくびれ部26が設けられている(図4参照)。

【0010】以上のような構成のボトム昇降機構を備えたベッド1を組み立てるときは、先ず、中央部に位置するフレーム2bの両端部をそれぞれ頭側のフレーム2aと、脚側のフレーム2cに差し込んで連結する。次いで、頭側フレーム2aおよび脚側フレーム2c側の起伏脚部材10、11を駆動するためのねじシャフト16、17を、連結棒20によって連結する。この際、ねじシャフト16、17の互いに対向する端部における連結パイプ18、19に連結棒20の両端部をそれぞれ挿入し、抜け止め手段24によって固定する。すなわち、連結パイプ18に挿入された連結棒20を、連結パイプ18を介して連結棒20のくびれ部26にループ状コイルスプリング28とから構成されている(図5参照)。

【0011】以上のような構成のボトム昇降機構を備えたベッド1を組み立てるときは、先ず、中央部に位置するフレーム2bの両端部をそれぞれ頭側のフレーム2aと、脚側のフレーム2cに差し込んで連結する。次いで、頭側フレーム2aおよび脚側フレーム2c側の起伏脚部材10、11を駆動するためのねじシャフト16、17を、連結棒20によって連結する。この際、ねじシャフト16、17の互いに対向する端部における連結パイプ18、19に連結棒20の両端部をそれぞれ挿入し、抜け止め手段24によって固定する。すなわち、連結パイプ18に挿入された連結棒20を、連結パイプ18を介して連結棒20のくびれ部26にループ状コイルスプリング28のばね力によってストップ軸27によって係合することで固定することができる。そして、ヘッ

ドボード3およびフットボード4、ボトム5を装着して組立が完了する。このようにしてベッド1を組み立てることができるので、工具は不要となる。

【0011】次に、ボトム昇降機構の作用を説明する。モータ21を起動すると、頭側フレーム2aのねじシャフト16が回転し、この回転力は連結棒20を介して、脚側フレーム2cのねじシャフト17に伝達され、同方向に回転する。ねじシャフト16、17には、互いに逆ねじを採用しているので、めねじ部材14、15は、ねじシャフト16、17上を、互いに遠ざかるか、近づくように移動する。これによって、起伏脚部材10、11の上端部は、フレーム2a、2cのガイドレール6、7に沿ってローラ8、9を介して互いに遠ざかるか、近づくように移動し、補助ステー12、13の補助規制作用により、起伏脚部材10、11は起伏動作し、ボトム5を昇降させることができるのである(図1、図6参照)。

【0012】以上説明したように、ボトム昇降機構は、頭側および脚側のフレーム2a、2c双方の起伏脚部材10、11と補助ステー12、13を、一つのモータ21によって連動させる構成であるので、機構の単純化が可能となる。また、頭側フレーム2aおよび脚側フレーム2c側の起伏脚部材10、11を駆動するためのねじシャフト16、17を、連結棒20によって連結する構成とすると、組立式の在宅用ベッドにも適用することができる。また、組立の際も工具は不要となり、組立作業が容易となる。

【0013】

【発明の効果】以上の通り、本発明によれば、頭側および脚側のフレーム双方の起伏脚部材と補助ステーを、一つの駆動手段によって連動させる構成であるので、機構の単純化が可能である。また、ボトム昇降機構を構成するねじシャフトを頭側および脚側とに分離形成してそれぞれねじシャフトを断続可能に連結するようにしたので、フレームを少なくとも頭側および脚側フレームとに分割構成したベッドに本機構を適用することができるので、特に在宅用ベッドに適合した機構となる。

【0014】

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明にかかるボトム昇降機構が適用されたベッドの一例を示す概略側面説明図である。

【図2】図1に示すベッドの構成を示す分解側面説明図である。

【図3】図1、図2に示すボトム昇降機構を構成するねじシャフトの連結構造を示す拡大断面説明図である。

【図4】図3に示す連結構造の詳細に示す要部構成斜視説明図である。

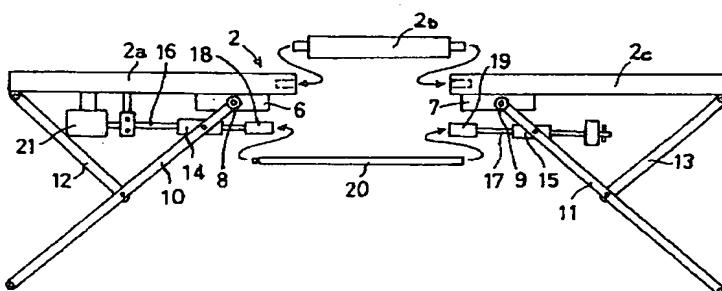
【図5】図4に示す連結構造の要部を分解して説明した図である。

【図6】本発明にかかるボトム昇降機構を起動して、ボトムを降下させた状態を示す概略側面説明図である。

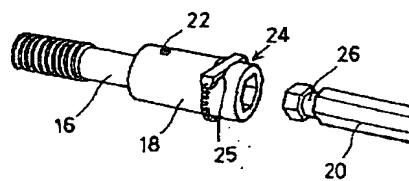
【符号の説明】

1	ベッド
2、 2a～2c	フレーム
3	ヘッドボード
4	フットボード
5	ボトム
6、 7	ガイドレール
8、 9	ローラ
10、 11	起伏脚部材
12、 13	補助ステー
14、 15	めねじ部材
16、 17	ねじシャフト
18、 19	連結パイプ
20	連結棒
21	モータ
22、 23	ピン部材
24	抜け止め手段
25	切り溝
26	くびれ部
27	ストッパ軸
28	ループ状コイルスプリング

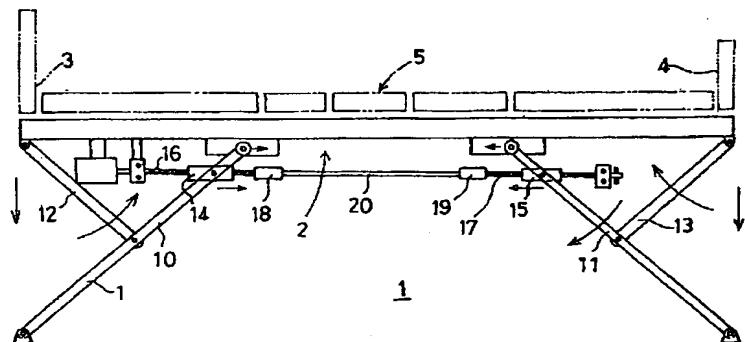
【図2】



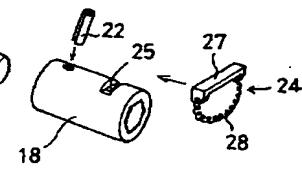
【図4】



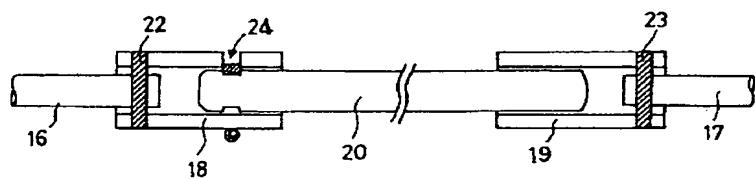
【図1】



【図5】



【図3】



【図6】

